

令和元年度 第1回 富山県公共事業評価委員会の概要

- 1 日 時 令和元年7月11日(木) 10:00~12:00
- 2 場 所 県民会館 701号室
- 3 出席者 中村委員(会長)、伊藤委員、小泉委員、東出委員、分家委員、吉川委員
- 4 審議内容(重点審議対象箇所について、パワーポイントで説明)
【土木部事業】(江幡次長) 重点審議対象5件
【農林水産部事業】(佐藤参事)

【土木部説明に対する主な意見】

○費用便益比 (B/C)

(委員)

- ・算出方法について、道路事業の場合、走行時間の短縮、走行経費の減少、交通事故の減少の便益があり、その他に、便益として計上されない効果として、救急救命率の向上、災害時における救援ルートの確保、観光客の増等による地域振興、企業誘致の増、富山駅の高架化事業の場合、U I Jターンの増等、色々な効果があると思われる。それらも便益として計上してはどうか。

⇒・県独自の方法で算出しているわけではなく、国のマニュアルに沿って計算している。道路事業のB/Cには、ご指摘いただいたように、本来、便益に加えてよいと思われるものが計上されていない。これは、算出方法が確立されていないことによるものであり、その点は国において検討いただきたいと考えている。

(委員)

- ・算出されている便益は、最終的に完成した時のものだが、完成までの工事期間中に、例えば、高岡環状線の整備はかなり複雑で、側道もたくさんあり、どこを走ればいいのか分かり辛い点が多く、逆に事故が増えるのではないかとと思われる。現在、高齢者の事故も多く、利用者の目線からも、工事が渋滞を招いており、工事期間中はかなり無理を強いられていると思われるが、そういう部分は加味されていくのか。

⇒・工事期間中に社会的損失を招いていることは事実であり、費用の中に工事期間中の渋滞や事故を加味するのも1つの選択肢だが、現在、国のルールでは、それらは加味されていない。

(委員)

- ・便益や費用で計上されていないものがあるというご指摘をいただいた。費用については、工期の短縮が損失の減少につながる一方、工期が長くなれば便益の発現が遅れ、トータルの便益は小さくなってB/Cが下がるわけで、日常利用している者にとっては切実で大事

な点である。

○主要地方道 宇奈月大沢野線

(委員)

- ・県道と市道の区間があるが、事業は別でも、便益は両方を含めて算出するのではないのか。
- ⇒・国のルール上、県と市でそれぞれの事業として算出しているが、ご指摘のとおり、市道区間も含めた全体として便益を算出するという考え方もあると思われる。

○小矢部川水系 池川(砂防)

(委員)

- ・平成20年の雨量で計算されているとのことだが、平成20年頃と近年の雨量とは全然違うのではないかと懸念される。
- ⇒・平成20年の雨量は、50年に1度程度の雨量だった。100年、200年に1度程度の雨量に対し、ハード整備だけで対策を実施するのは、なかなか現実的でなく困難というのが一般的な考え方である。例えば、ハード整備では、県管理河川では50年、国直轄河川だと100年、150年に1度程度の雨量に対して整備をし、併せて、ソフト整備として、避難を重視した対策を実施していく。

○都市計画街路事業 あいの風とやま鉄道線等

(委員)

- ・あいの風の高架化の費用が増えているが、労務費や資材の単価が上がっていくのは仕方ないことだとして、新幹線駅舎とのデザインの統一は、最初からJR等関係者で協議していればできたのではないか。
- ⇒・建設業の人材不足が言われている中、現場の作業員に適正な額を支払おうという考え方で、積算で使っている国の基準の労務費は5年前と比べて5割上がっている。
- ・新幹線の駅舎のデザインは、最初から決まっていたわけではなく、また、中2階の計画もなかったと記憶している。それが、新幹線側で後から計画変更されており、あいの風の駅舎も新幹線の駅舎にデザインを統一するということで、最初からでなく、途中で計画変更に対応してきたということである。

【農林水産部説明に対する主な意見】

(委員)

- ・最近、用水路で死亡される方が富山県は多いと話題になっている。全体がコンクリートで

整備されており、自力で這い上がれなくなった影響が大きいと聞いたが、このようなことに配慮した構造にするなど、用水路整備の中で事故への対策を考慮しているのか。

⇒・地元からの要望などがあれば、例えば、転落防止柵を設けるなどの対策を行う場合もある。現在、用水路の事故について検討会を立ち上げ、年内にガイドラインを作成する予定。事故は、必ずしも大きな水路で起こっているわけではなく、小さな水路で多くなっており、そういう状況を踏まえて検討する。

(委員)

・高齢化、人口減少など、周りで見守る人が居なくなっていることなどが影響しているのかもしれない。

【全体を通してのコメント】

(委員)

・B/Cに関する質問を多くいただき、どういう考え方で、何を便益、費用に入れているかというところをフォローいただいた。B/Cが下がっている事業について、どういう対策・対応がとられるのかが大事。B/Cが事業継続の判断材料の1つになるわけだが、例えば、事業が完成した後、期待したとおりの便益が出ているのかどうか、という視点も必要。